

鎌ヶ谷市

郷土資料館

だより 第68号

目次

- 令和6年度新資料展示を開催…… 1
- 資料館 夏の思い出2024…… 2・3
- 郷土資料館この一品②⑥…… 2・3
- 史料整理の現場から①⑦…… 4

文化財に親しまろう

新発見！鎌ヶ谷のたからもの

=新資料展示を開催 10/26~1/26=

毎年11月1日から7日は「文化財保護強調週間」です。この期間中、文化財に親しむことを目的として全国的に様々な行事が催されています。

鎌ヶ谷市でもこれに合わせ、令和5年度に市が発掘・調査した埋蔵文化財と、郷土資料館が発見、調査・整理、または寄贈いただいた歴史・民俗資料の主なものを展示する「新資料展示」を開催します。いずれの資料も初めて公開するものばかりです。ぜひ、新しく仲間入りした「鎌ヶ谷のたからもの」をご覧ください。

展示内容

◇埋蔵文化財

令和5年度中に発掘調査を行った「遠山 No. 5 遺跡」及び「木戸脇貝塚」などから出土した遺物と、遺跡の発掘調査状況の写真パネルなどを展示します。



し
遠
た
山
土
No. 5
師
器
遺
跡
で
発
見



移動図書館「ひかり号」
(昭和30年前後の鎌ヶ谷駅前)

◇歴史・民俗資料

市内で発見、調査・整理、または寄贈された、主に明治・大正・昭和時代の歴史資料、民俗資料(民具)、郷土資料館に移管された市歴史公文書、市域を撮影した写真のパネルなどを展示します。

展示期間 10月26日(土)~1月26日(日)。

ただし、毎週月曜日及び11月23日(土)、12月28日(土)~1月3日(金)、1月14日(火)は休館。なお、11月3日(日)は開館

会場 郷土資料館2階展示室

涼しい館内で昭和40年代の歌謡曲を聴きながら当時の社会や世相を振り返る「ケールシェア企画」は、毎回満員御礼。参加者は、しばしあの頃

資料館 夏の思い出 2024

猛暑日が続いた今年の夏。皆さんはどうお過ごしだったでしょうか？ そんな暑さも物ともせず、郷土資料館にはコロナ渦前の賑わいが戻ってきました。このコーナーでは「資料館夏の思い出2024」と題して、この夏に行った各種講座・教室の様子を写真で振り返ります。



「昔のくらしふれあい広場」では、昔の道具にさわるとあって子どもたちは興味津々。おじいちゃんたちが子どもの頃は、こんな道具を使っていたんだ！初めて回すダイヤルも新鮮です。



◀ 現在開催中のミニ展示「鎌ヶ谷石材展」ギャラリートークでの一コマ。専門の学芸員による展示物の解説により一層理解が深まります。このミニ展示は9月29日まで。ぜひご覧ください。

郷土資料館この一品②⑥

下総牧開墾局知事 北島秀朝等旅宿看板

今回は、初富開墾コーナーにある市指定文化財をご紹介します。

江戸時代、北総台地に広がっていた幕府直轄の馬の牧場の一部では、明治維新後、東京市中の窮民救済きゅうみんきゅうさいなどを目的とした開墾事業が行われました。この開墾事業は水戸藩出身で当時東京府判事であった北島秀朝きたじまひでともが立案し、初代開墾局知事となって事業を推進しました。

これらの開墾地には、開墾順とその土地の繁栄の願いを込めた文字が組み合わされた地名が付けられており、これは北島自らが命名したといわれています。しかし、北島がこの地に来て命名したことは、残された史料には記されていても具体的に証明するものはありませんでした。

平成8年(1996)に栗野地区で明治初年に名主ぬしを務めた旧家の蔵から、北島をはじめ東京府の役人の名が墨書された看板が3枚見つかりました。1枚は「北島五位旅宿」と表裏に記されたもの(縦63.5cm、横16.0cm、厚さ0.9cm、松材)、もう1枚は片面に「関口一郎旅宿」と記されたもの(縦62.2cm、横14.0cm、厚さ1.4



テレビ番組でお馴染みの「火起こし」が体験できる「縄文人の生活ウォッチング」は大人気。しかし、現実には甘くありません。それでも2組のグループが見事火起こしに成功しました。



「まが玉づくり」では、四角い石を紙やすりで根気よく削って仕上げます。参加した子どもたちからは、「世界で一つのまが玉ができてうれしかった。」などの感想をいただきました。



「あんぎん編み」に参加した子どもたちからは、「昔の人がやっている編み物は難しいけど楽しい！」などの感想をいただきました。



「めざせ！学芸員」では、学芸員の仕事を学びながら郷土資料館の裏側に潜入したり、また、未公開の史料も見ることができました。



開墾局知事等の旅宿看板



北島秀朝の肖像

cm、桧材)、そして最後の1枚は一面に「花井静一郎旅宿」(縦63.2cm、横14.6cm、厚さ1.0cm、

桧材)、もう一面には「開墾局御宿」と記されていました。「関口」「花井」は北島配下の開墾局の役人であり、これにより北島が鎌ヶ谷の地に来て「初富」と命名、宣言したことが裏付けられました。なお、これらの看板は平成10年(1998)11月2日付で「市指定文化財」として指定しています。

ただ残念なことに「北島」看板は虫食いのため、周囲が欠損するなど状態が悪く、クリーニングおよび虫穴の処置をした後に、材の補強する保存修理を行って展示しています。また、ほかの看板も同様に処置をし展示しています。

【史料整理の現場から⑩】

市域の葬送儀礼の実際

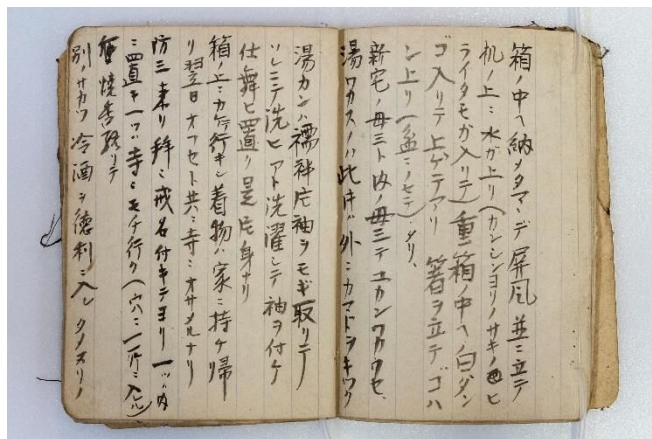
市内佐津間の旧家である澁谷家には、近世～近・現代の膨大な資料群が残されており、市として昭和59年(1984)から整理を続けています。一昨年度その大半を市にご寄贈いただき、現在その整理も第15次にまで及んでいます。

澁谷家の史料は以前もご紹介したことがありますが、今回は民俗行事に関する史料です。

市域で行われた葬送儀礼の内容が具体的に残されていたのは、ほんの小さな手帳でした。綴じ糸ははずれているものの、外装は黒い布張り(縦10.5cm×横7.5cm)で、複数の人の手による様々なメモが記されていました。その中の一つに、葬送儀礼の流れを記したものがありました。澁谷家の史料であることや前後の内容から大正5年(1916)頃の佐津間地区の儀礼が記されていると思われます。一部をご紹介しましょう(「」内は本文そのまま、ルビで補足)。

「新宅ノ母三ト内ノ母三テゆかんツカワセ、湯ワカスノハ此トキハ外ニカマドヲキツク」昭和期、少なくとも戦前は自宅で病人の最期を看取るということはよくありました。病院で亡くなった場合でも、自宅に戻ったものです。その際、ユカンといって死者の身体をお湯で洗ってあげました。この時は母屋内のカマドではなく、外に別のカマドを作って湯を沸かしたということが記されています。さらには「湯カンハ襦袢片袖ヲモギ取りテソレニテ洗ヒ、アト洗濯シテ袖ヲ付ケ仕舞ヒ置ク、是片身ナリ」

とあり、ユカンをする場合、死者の着物の片袖を切って身体を洗うのに使った様です。ユカン後にその袖を洗濯して元の襦袢に縫いもどし、



葬送儀礼が記された手帳

それを形見にしたともあります。

「四十九ノダンゴヲ五十ツクリーツヲ残シテ置キ四十九ヲ寺へオサメル、(中略)皆々カヘリ来リテヨリーツノダンゴヲ切りテ塩ヲ付ケテ食ス」とあり葬式当日団子を50個作り、1個を残してお寺へ納め、帰宅後に残しておいた1個の団子を切って塩を付けてみんなで食べたとあります。これは「四十九餅」と言われるもので、市内各地で行われていました。

平成5年(1993)発行の『鎌ヶ谷市史』資料編V(民俗)には、市域に近年まで伝わった私たちの父祖の生活様式や考え方が項目別に記載されています。これは昭和62年から市内各地区のお年寄りへの聞き取り調査を行い、その内容をまとめたものです。その中の「葬制」という項目に葬送儀礼についても各地区の慣習の聞き取りが記されています。お年寄りの記憶による「聞き取り」の中に今回ご紹介した「ユカンの湯を沸かす時は外にかまどを作る」「ユカンには死者の襦袢片袖を使う」「四十九餅」の民俗も見られます。お年寄りからの「聞き取り」内容が、今回ご紹介した当時の史料と合致することは当然のことかもしれません。しかし「伝聞」に依ったものが実際の史料から後付け出来ることは、過去の史料を読み解く者にとっては「やはり」と確信出来るこの上ない瞬間なのです。

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第68号 令和6年9月15日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館
住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502
メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp
ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html